

肥効調節型肥料と底面給水法を組み合わせたシクラメンの鉢替え省略栽培

農業研究センター 農産園芸研究所 土壤肥料部

担当者：寺岡 裕子

研究のねらい

鉢物栽培での底面給水法は従来の表面からの給水に比べ、管理が楽で、かつ肥料養分の溶脱(損失)が少ない方法である。また、化学肥料を樹脂で被覆した肥効調節型肥料は養分の溶出が緩やかでその量が計算されるとともに根を痛める危険性が少ない。そこで、これらの技術を利用し、鉢替えの度に肥料を調整する従来からのシクラメン栽培に対して、施肥は1回のみで鉢替えを行わない栽培法を検討した。

研究の成果

1 鉢替え省略栽培概要

	播種	鉢上げ	鉢替え	出荷
従来法	1H 月上旬	4 月下旬	7 月上旬	12 月上旬
鉢替え省略法	1 月下旬	4 月下旬	-	12 月上旬

- 1 月上旬に 200 穴のセル成形トレイに播種し、20 の暗室に約 1 ヶ月入庫、その後 4 月下旬に 15cm 鉢に直接鉢上げする。
- 鉢替えを省略すると、大葉の割合が多くなるが、花数は従来法に劣らず、株のボリュームは同等以上のものが得られる。
- 肥効調節型肥料は養分の溶出が緩やかであるため、シクラメンの生育全般を通して肥効が現れるものがよく、均一溶出型 180 日タイプの被覆肥料が良い。
- 施肥は鉢上げ時に全量施用し窒素成分で用土 1l 当たり 1.5g 程度必要である。

普及上の留意点

- 鉢替え省略栽培では、大葉の割合が多くなりやすく、その結果、葉先枯れも発生しやすいので、灌水制御等で夏場の生育を抑える工夫が必要である。
- 気象の変動による施肥の調整は随時実施する。

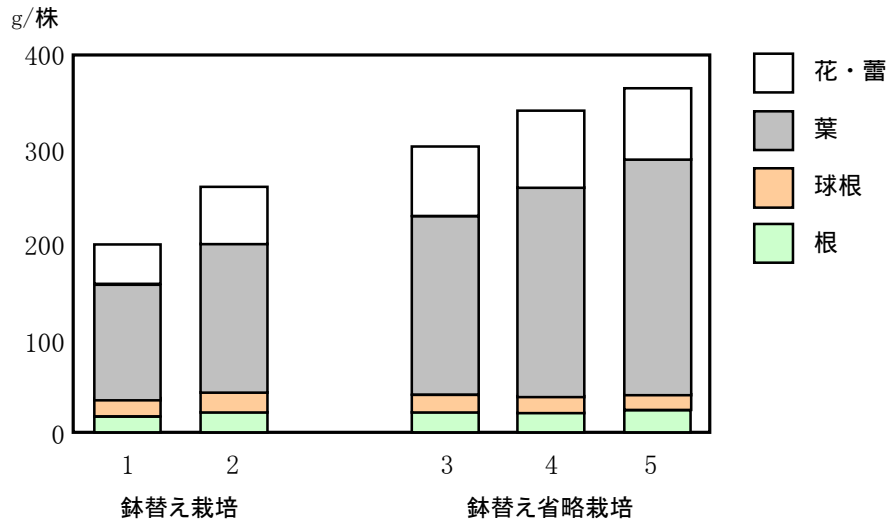


図1 出荷時における生育状態

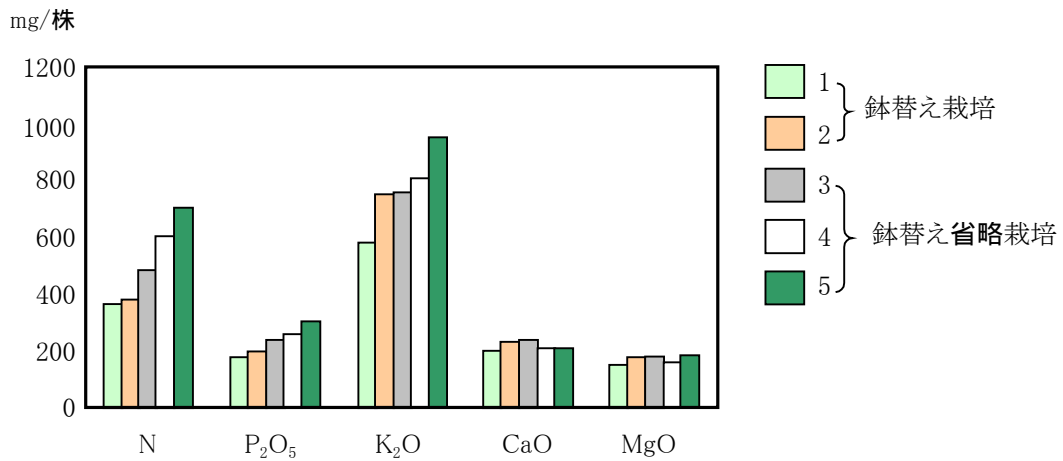


図2 出荷時における各養分の吸収量

注) 1 品種は、F₁アポロ
 2 施肥量区分 (Ng/鉢)
 (区分) (鉢上げ時) (鉢替え時)

1	0.08	0.79
2	0.08	1.05
3	0.08	-
4	1.10	-
5	1.31	-